

マルスの しっぽ

〜愛犬にまつわる
三二五行歌集〜

伊東袖月



愛犬マルスのごくごくプライベートな写真と、自作の五行歌のコラボです。

(犬の「プライベート」じゃない写真...ってあるんだか?)

マルスは超大型犬・グレートデンです。

身体は大きいのに、とても臆病者で気の優しい犬です。

大きいというだけで、怖がられたり嫌われたりすることも...

そんな彼の名誉挽回のため、こんな本を作ったというわけです。

10首のうち半分は、もともと全くマルスとは無関係に出来た歌です。

手持ちの写真と合わせてみると、意外にしっくり来るような気がしてきて不思議です。

残りの5首は、本書のために書き下ろしました。

...親バカとお笑い下さい。

2011.1月 伊東柚月

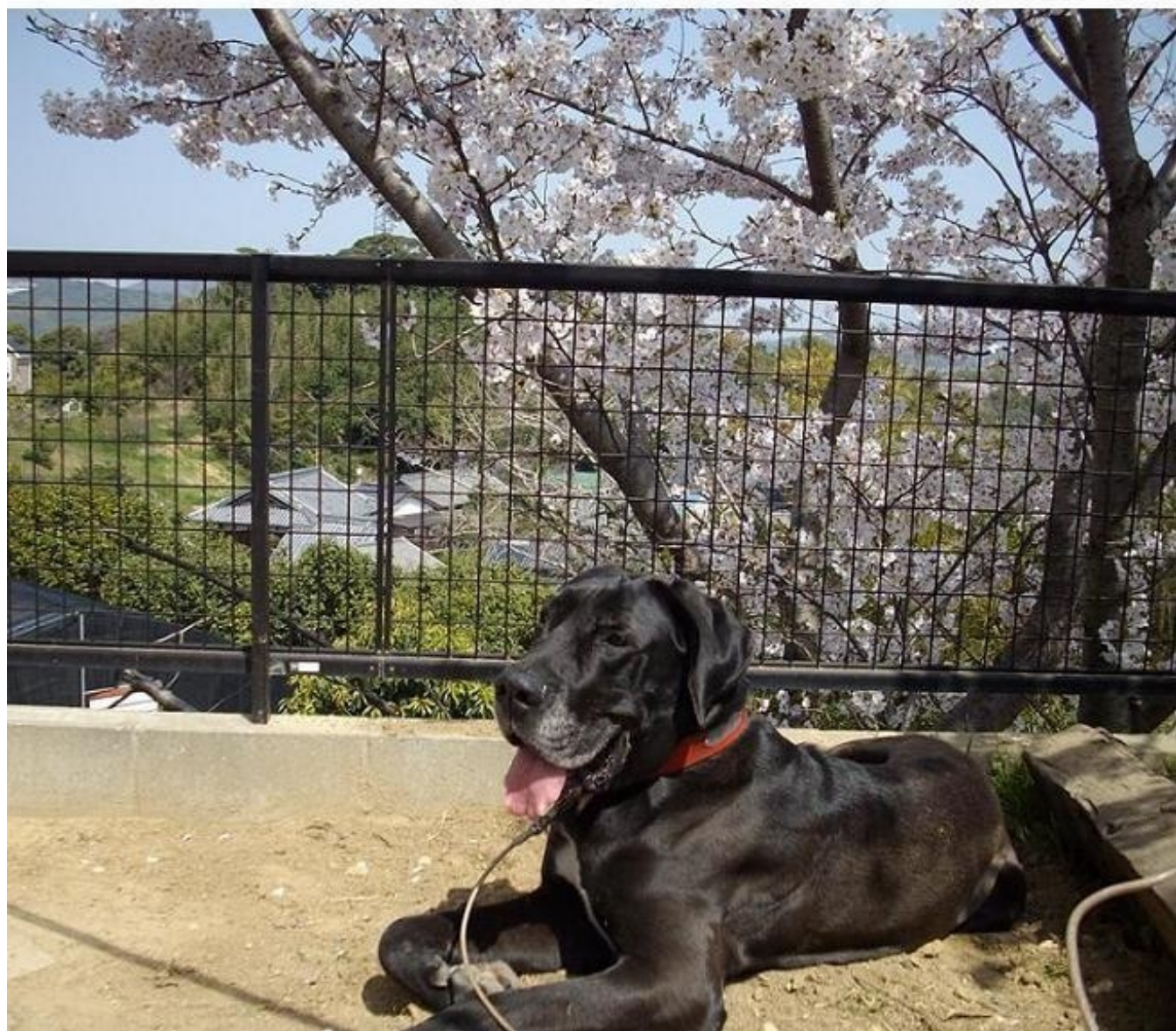
空って

こんなに

明るかったんだ

ふうん

サクラっていうんだね



孤独って

めくもりの記憶

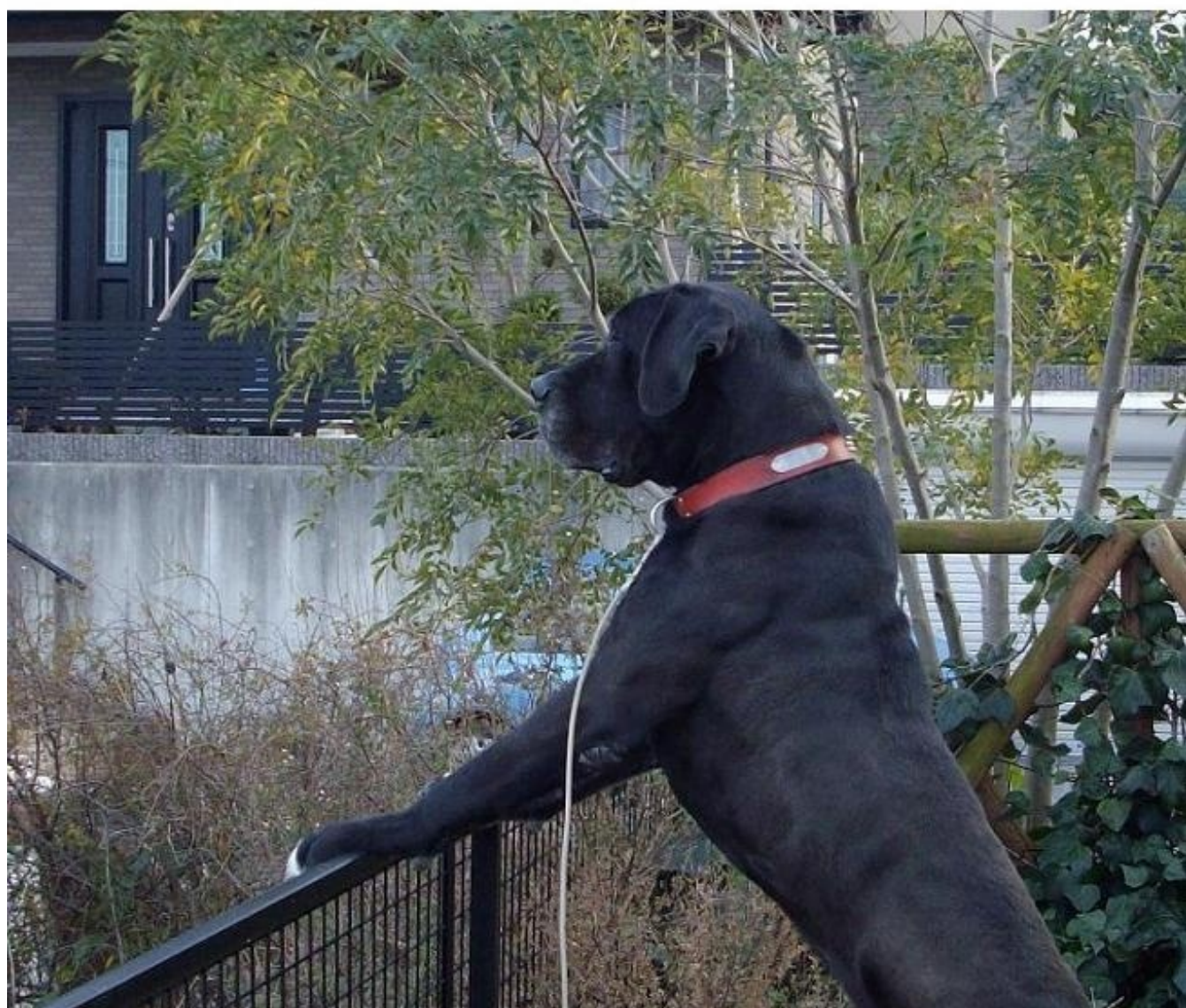
撫でる手の

在った場所どころに

消え残る



好奇心ってヤツは
ときどき
フェンスのむこうを
覗かせたいする
…やっかいだね



後ろ暗さの
欠片もない
犬の背
弓なりに
反る



あくびと
あくびの
あいだの無言
あなたと私
冬の日溜り



よく動く

しっぽさえあれば

愛なんて伝えられる

大変だね

にんげんは



人のさみしさを
放っておけない
君の
そのさみしさを
誰が救うのだろう



生まれてきたのは

笑うため

愛を知るため

ときどき

泣くため



いっそ
大きく回もう
いつか
多くを満たす
器になるのだ



遙か

北の草原を

夢で駆けているのだろう

おやすみ

蒼き狼の子



本来、五行歌は言葉だけで勝負するものだと思います。

が、今回のような写真とのコラボという形も邪道とまでは思いません。
相乗効果が生まれる場合もあるのです。

そしてなにより、初めて「五行歌」に触れる方に親しみを持っていただけたら。
前作で重い面を出しすぎてしまったので、今回は少し違った面を。
そういう2つの思いもありました。

なににせよ、この本を通して癒しとか安らぎとかを感じていただけたら嬉しいです。

2011年1月 寒波到来の夜 伊東柚月

ぶちゃ犬でごめんなさい。マルス



五行歌集
マルスのしっぽ

著者 伊東袖月

写真 伊東袖月

第1版 2011年1月15日 電子書籍にて

©Yuduki Ito 2011